

わたしたちは忘れない  
戦争の怖さも、平和の尊さも。

# Hiroshima Tsuchizaki ヒロシマ・土崎 被爆証言講話会

写真：原爆ドーム  
(広島平和記念資料館 提供)

平成29年

7.15(土)・16(日) 午前10時～正午 [両日とも]

入場  
無料

にぎわい交流館AU 4階 研修室1・2

秋田市中通1丁目4番1号 電話018-853-1133

お問い合わせ 秋田市企画調整課 電話 018-888-5464

行事予定 両日とも

広島被爆体験者による講話 (10:00～11:00)

大学生による平和への提言 (11:00～11:15)

土崎空襲体験者による講話とDVD上映 (11:15～12:00)



主催/秋田市 協力/広島平和記念資料館 土崎港被爆市民会議 CNA秋田ケーブルテレビ

後援/秋田県教育委員会、秋田市教育委員会、平和首長会議、日本非核宣言自治体協議会、秋田魁新報社、朝日新聞秋田総局、河北新報社、毎日新聞秋田支局、読売新聞秋田支局、産経新聞社秋田支局、日本経済新聞社秋田支局、時事通信社秋田支局、共同通信社秋田支局、NHK秋田放送、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、エフエム秋田

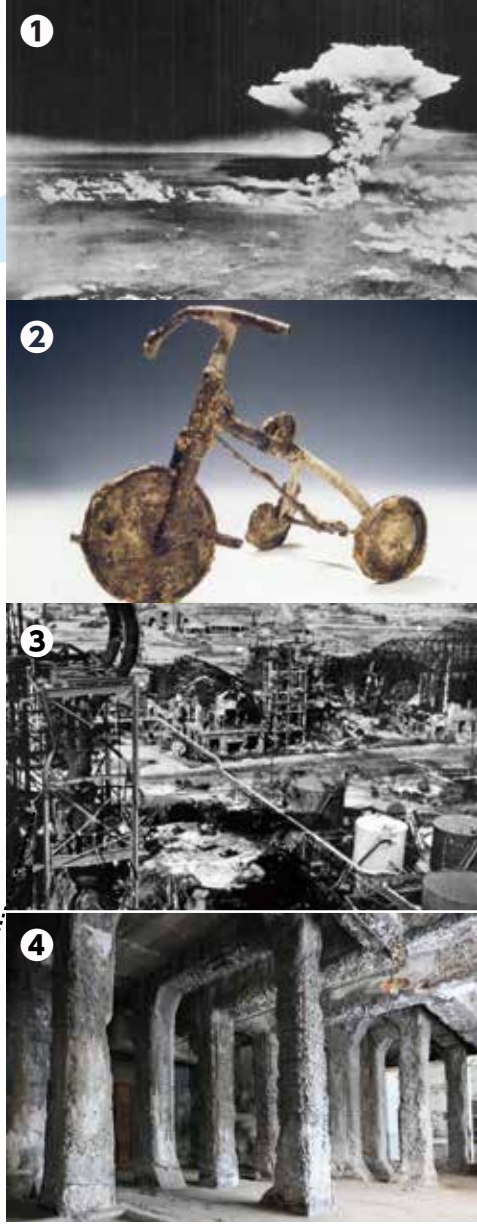
Hiroshima  Tsuchizaki

# ヒロシマ・土崎 被爆証言講話会

1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分、広島に一発の原子爆弾が投下され、その年のうちに14万人の罪なき命が失われました。

また、ここ秋田では、終戦前夜の8月14日から15日の未明にかけて、土崎地区に1万2千発を超える爆弾が投下され、この空襲は、「日本最後の空襲」と呼ばれています。

このような悲劇を二度と繰り返さないため、秋田市は、体験者の講話や原爆の絵・土崎空襲資料の展示を通して、若い世代の平和意識の醸成を図るとともに、その記憶を次世代に語り継ぎます。



## 写真説明

- ① 米軍機より撮影したきのこ雲(米軍撮影)
- ② 三輪車(銚谷 信男氏 寄贈)
- ③ 土崎空襲を受けた後の旧日本石油秋田製油所
- ④ 土崎空襲を受けた旧日本石油秋田製油所の倉庫内

## プログラム



講話者

山本 玲子さん

### 1 広島被爆体験者による講話 10:00~11:00

1938年(昭和13年)生まれ。

1年生だった7歳の時、爆心地から4.1km離れた国民学校の校庭で、飛行機を見上げていた時に被爆。

2005年(平成17年)よりヒロシマピースボランティアとして活動中。



土崎空襲で死亡した児童が着ていた学童服(左肩甲骨から右脇腹(赤い布部分)へ爆弾の破片が貫通)

### 2 大学生による平和への提言 11:00~11:15

- 国際教養大学 3年 梅田 実帆さん
- 秋田大学 4年 バヤスガラン・ブヤンヒシゲさん(モンゴル)

### 3 土崎空襲体験者による講話とDVD上映 11:15~12:00

講話者 土崎港被爆市民会議 伊藤 津紀子さん

ART

同時開催  
美術を学ぶ高校生が描いた原爆の絵の展示と土崎空襲資料展示



8時15分で止まった時計(川越 明人氏寄贈)